

河川水域特産資源管理対策事業

ゴキ人工種苗生産試験

川島隆寿

ゴギは中国地方のみに生息するイワナ属の一種で、山陰では斐伊川から高津川まで、山陽では岡山県の吉井川から広島県の太田川を経て山口県の錦川まで分布している¹⁾。また、ゴギの分布域はわが国におけるイワナ属分布の西限にあたとされ、その分布域の局限性と、近年の個体数の減少により、“日本の絶滅のおそれのある野生生物”いわゆるレッドデータブックで絶滅種、絶滅危惧種につぐ危急種に選定された²⁾。

島根県においてはヤマメ、アマゴ同様に溪流釣りの代表種であるが、種苗生産技術がほとんど確立されていないためヤマメやアマゴの様に種苗放流は実施されておらず、その保護対策についてはわずかに2、3の支流で禁漁区が設定されているのみである。

そこで、ゴギの増殖を計る一つ的手段として、人工種苗生産を試みたので報告する。

材料及び方法

ゴギの採集は周布川において釣りと投網により行なった。採集時期はゴギが産卵期を迎えると考えられる10月23日～11月15日にかけて計3回である。親魚採集結果を表1に示す。

表1 親魚採集結果

月 日	河川名	支 流 名	採集方法	採集数	全長範囲 (cm)
10月23日	周 布 川	長谷川、トッサゲの谷	釣 り	13	
11月7日	"	長 谷 川	"	14	
11月15日	"	"	投 網	19	14～27

採集した親魚は現地でビニール袋につめて持ち帰り、斐伊川支流長谷川沿いのヤマメ養殖業者の養魚池に収容した。収容時の水温は10.0～12.9℃であった。採集後、1週間以内に親魚を取り上げ、腹を絞って乾導法により受精を試みた。卵は縦型ふ化槽に収容し、ふ化を待った。

結果及び考察

10月23日採集の親魚は翌日に約半数の6尾が斃死し、さらに残った親魚も体表に水カビが生えて

続々と斃死したため、採卵が不可能であった。11月7日採集の親魚も前回同様に斃死する個体が多かったが、11月13日に雌3尾と雄2尾から約500粒の卵を採集した。翌年1月16日にはふ化が開始し、1月22日には80尾がふ化を終えた。この間の水温は5～10℃で、ふ化までの積算温度は455℃であった。浮上期以後、協和初期飼料B2(450 μ)を与え、餌付を行なった。その後、成長に応じて配合飼料の粒径を大きくし、継続飼育を行なっている。11月15日採集の親魚については、既に大部分の親魚が産卵を終えており、採卵は不可能であった。

ゴギの種苗生産は緒についたばかりであり問題点は数多いが、1)親魚の確保、2)採卵時期が早急に解決すべき問題点であると思われる。また、たとえ種苗生産技術が確立し種苗放流が行なえる状況になったとしても、異なる河川間でのゴギの交雑を防ぐため、親魚の由来と放流場所には十分に留意する必要がある。

文 献

- 1) 木村清朗：日本の淡水魚，川那部浩哉・水野信彦編，山と溪谷社，128-131(1989)
- 2) 環境庁編：日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—，脊椎動物編，301-303(1991)